

科目名	食料・農業・農村政策	担当教員	武本俊彦	
対象年次	配当学期	単位数	対象	必選区分
2	前期	2	全員	必修
授業の概要	食料・農業・農村に関わる政策について学ぶ。食料に関しては、国内外での需給政策、農業に関しては、農業を取り巻く制度、農村に関しては、集落の変容と過疎化などの政策対応に関して学ぶ。WTOやEPAなど貿易自由化と世界の農政に関する学び、我が国の農政(食料・農業・農村政策)の歴史的な推移を踏まえ、農政を体系的に学ぶ。			
到達目標	世界の農政の変化を参考にしながら、自由化時代の我が国の食料・農業・農村政策の構造を理解し、今後の政策の有り様を考える能力を涵養する。特に、プロダクトアウト型からマーケットイン型への経営モデルの転換や、地域資源を活用する内発型発展の必要性に関して理解する。経済の変化と政策、政策形成と政治の関係性等に関して把握する能力を醸成する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業のガイダンス(授業の進め方、市場と政府の役割、公共政策(食料・農業・農村政策)の意義)</li> <li>2 日本経済の成長過程と日本農業(その1(食料・農業・農村の果たした役割))</li> <li>3 日本経済の成長過程と日本農業(その2(旧基本法の成果と新基本法制定の背景))</li> <li>4 日本農業の成長過程と日本農業(その3(消費の成熟とフードシステムの形成))</li> <li>5 食料自給率の低下とその要因</li> <li>6 日本の国際化の中での農業保護の在り方</li> <li>7 農業構造の改革(その1)(農地制度など)</li> <li>8 農業構造の改革(その2)(農業経営、農業労働など)</li> <li>9 農業構造の改革(その3)(農業経営支援措置、農協改革など)</li> <li>10 農業生産政策(その1)(米政策を中心に)</li> <li>11 農業生産政策(その2)(農業基盤、農業資材など)</li> <li>12 生産現場での技術革新の在り方</li> <li>13 農村政策(その1)(農村振興の在り方)</li> <li>14 農村政策(その2)(土地利用制度の在り方)</li> <li>15 食料・農業・農村政策の今後の課題</li> </ol>			
評価方法	授業中の小テスト、必要に応じて課したレポート及び期末評価試験を総合して評価する。			
教科書	「儲かる農業論 エネルギー兼業農家のすすめ」(金子勝・武本俊彦著)(集英社) 授業ために用意する資料			
参考書等	「食と農の『崩壊』からの脱出」(武本俊彦著)(農林統計協会)			
事前事後学習	教科書、資料を予習の上講義に臨むこと。教科書、資料を基に復習し、次の講義の準備をしておくこと。			
備考				